2026年11月吉日
富士ホールディングス株式会社作成

NPO法人very50と「企ミDiner（たくらみダイナー）」を共催
社会人と大学生が交流し、新たな気づきや挑戦のきっかけを生み出す

富士工業株式会社（以下、FUJIOH※1）は、2026年11月6日（金）、NPO法人very50（以下、very50）とともに、人材育成イベント「第1回 企ミDiner※2」を開催しました。当日は、FUJIOH社員をはじめ、大学生や異業種の社会人など多様な参加者が集い、社会課題や自身の経験について語り合いました。立場や世代を越えた対話を通じて自身の働き方や行動を見つめ直した参加者から、新たな視点を仕事に取り入れたいという意欲やイベント企画の構想など、新たな挑戦のきっかけ（企ミ）が生み出されました。

※1 FUJIOHは、富士工業グループの企業ブランドです。
※2 企ミDinerは、very50主催、FUJIOH共催のイベントです。

「企ミDiner」で起きた参加者の変化

①視野の拡大

「企ミDiner」では、very50代表理事の菅谷亮介氏が、中小企業を取り巻く現状や社会課題を、日本経済・産業全体を俯瞰する視点から解説しました。加えて、160年以上の歴史を持つ機能紙メーカー、セキネシール工業株式会社の経営者・関根俊直氏が、挑戦に至った背景や意思決定、試行錯誤の経験を語りました。参加者からは、「受動的に働くのではなく、自分に何ができるのかを考えながら行動していくことの大切さに気付いた」などの声が寄せられました。こうした声が寄せられたことから、本イベントは、参加者が自身の働き方や行動を見つめ直す機会となりました。





講演の様子

参加者の声（参加者アンケートの自由記述回答をもとに、一部抜粋・要約して掲載しています。）
・中小企業が事業を継続していくことの難しさと、その中でも挑戦を続ける大切さを学ぶことができた。今回の講演を通じて、何のために働くのかを改めて考える良いきっかけになった（FUJIOH社員）。
・講義で話されていた「リーダーだけでなく、2番目のフォロワーの存在が重要である」という考え方が印象に残り、組織やチームにおける自分の役割について改めて考えるきっかけになった（FUJIOH社員）。

②挑戦のきっかけの誕生

食事を囲みながら参加者同士が対話を深め、講演で得た気づきや、それぞれの仕事・活動における挑戦について意見を交わしました。交流を通じてさまざまな視点や価値観に触れることで、仕事や大学生活における新たな挑戦のきっかけが生まれました。


Dinerタイムで意見交換をおこなう参加者

参加者の声（参加者アンケートの自由記述回答をもとに、一部抜粋・要約して掲載しています。）
・同じテーブルで起業を目指している大学生たちと対話し、彼らの熱意に刺激をもらった。自分にはない発想や考え方に触れたことで、これまでの発想にとらわれず新しい視点を取り入れていきたいと思った（FUJIOH社員）。
・社会人や起業を目指す大学生との交流を通じて視野が広がり、通っている大学の施設を活用したビジネスアイデア提案イベントを開催してみたいと思った（大学生）。

参加者アンケートでは、「企ミDinerを社員／友人や知人に勧める可能性」について、回答者の半数が企ミDinerを推奨する評価（9～10点）をしました。

参加者の視野を広げ、新たな行動を踏み出す後押しとなった今回の開催を受け、FUJIOHとvery50は今後も「企ミDiner」を継続開催する予定です。「企ミDiner」は、より多様な人々がつながり、対話を通じて新たな行動を生み出す場となるよう、参加者が自身の仕事や活動に活かせるヒントを得られるテーマを取り入れながら展開していきます。

Q.今回の企ミDinerを社員／友人や知人におすすめする可能性はどのくらいありますか？（NPS調査※3 10点評価）
「第1回 企ミDiner」参加者アンケート。有効回答数12名(FUJIOH社員・一般参加者)。



※3 NPS（Net Promoter Score）：イベントや商品・サービスを他者に勧めたいと思う度合いを測る指標。0～10点で評価し、回答結果を基に算出する。

■関連プレスリリース・ニュースレター
・社会課題解決に挑む人材を育成する施設「.TEN」オープンプレスリリース
https://fujioh.com/news/normal/news_detail?id=567
・「企ミDiner」開催告知ニュースレター
https://fujioh.com/news/normal/news_detail?id=611

＜報道関係者お問い合わせ先＞
富士ホールディングス株式会社　コミュニケーションデザイングループ
TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com

「.TEN」と「very50」について

■「.TEN」概要

2025年11月にオープンした「.TEN」は、他者や社会に対して優しさを持ちながら社会課題解決に挑む人材（以下、自立した優しい挑戦者）が生まれ育つ空間として、「食べル・企ム・交差点」をコンセプトにしています。肩書きや立場を越えた人々が食事を囲むことで交わり、互いに学び合い、そこで生まれた気づきやエネルギーを、それぞれの「企ミ」として形にしていきます。

教育NPO「very50」が運営する本施設は、NPO やソーシャルビジネスの立ち上げ、地域課題の解決プロジェクトなど、社会にポジティブなインパクトをもたらすチャレンジに取り組む若者が利用できる拠点として位置づけられています。



「.TEN」内観

所在地：東京都千代田区神田三崎町3丁目4−2 J・SQUARE水道橋 2F
ＴＥＬ：03-4405-4672
公式Web：https://dot-ten.jp

■「very50」概要

NPO法人very50は2008年に創業し、社会課題の現場と学びをつなぐ教育NPOです。経営課題を現役社会人や大学生と共に解決していく高校生向けプログラム「Mission on the Ground（MoG）」や、新興国のような複雑な環境下でリーダーシップを発揮する人材を育成する大学生向けプログラム「Leadership in Developing countries（LiD）」を展開。不確実で変化の激しい時代においても、自ら考え、選び、行動し、道を切り拓く力を育てています。

ミッションは「自立した優しい挑戦者を増やして、世界をもっとオモシロク」。これは、単に起業家や社会活動家を育てることを目的とするものではありません。自らの意思で行動し、他者や社会に対して優しさを持ちながらも挑戦を続ける――そんな“10%のホンモノ”を志す人たちを社会の中に増やしていくことを目指しています。



MoGの活動の様子

very50 が育ててきた挑戦者たちは、国内外の学校現場や企業、地域社会で新しい動きを生み出しています。
教育から社会へ――挑戦の連鎖を広げることが、very50の使命です。

公式Web：https://very50.com/

「FUJIOH」について

■FUJIOH概要

FUJIOHは、1941年の創業以来、ものづくりにこだわり続け、現在では一般家庭用レンジフード国内シェアNo.1※4のメーカーとして事業を展開しています。近年は、レンジフード開発で培った知識・技術を活かし、業務用製品の開発・生産に加え、産学連携や企業間共創などを通じて、新たな事業や価値創出に取り組んでいます。

食と親和性の高い事業を展開する FUJIOHは、肩書きや立場を越えた人々が食事をきっかけに集い、自立した優しい挑戦者を育てる「.TEN」のコンセプトに共感し、2025年9月にvery50とスポンサー契約を締結しました。

FUJIOHは、very50とともに企画づくりに携わるほか、空気環境改善の知見を「.TEN」の空間創りも支援しています。快適な空気環境を整えることで、参加者同士が対話しやすい環境づくりに取り組むとともに、キッチンスペースにはFUJIOHの関連ブランドが提供する可動式IH調理ワゴン「ARIACHEF Pro（アリアシェフプロ）」を設置し、参加者が調理をしながら自然に交流できる場を提供しています。





上：「.TEN」の
キッチンスペース
下：アリアシェフプロ

※4 出典：シェア 61.8%・富士経済「住宅建材 / 新築・リフォーム市場トレンドデータ便覧 2026」（2025 年度実績）
※4 富士工業グループは、レンジフード国内トップシェアメーカーです。（ODM 生産品を含む）

＜報道関係者お問い合わせ先＞
富士ホールディングス株式会社　コミュニケーションデザイングループ
TEL: 042-718-5661 E-MAIL: fujioh.cdg@fujioh.com